

《令和4年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》  
阿南市在宅医療・介護サービス事業所連絡会  
居宅介護支援事業所連絡会報告書

1 日 時 令和4年5月26日（木）14:00～15:30

2 場 所 阿南市役所6階602・603会議室

3 参加者 居宅介護支援事業所介護支援専門員(38名)  
阿南市地域共生推進課、介護保険課、  
在宅医療・介護連携支援センター、阿南市防災会 計44名

4 内 容

(1) 挨拶

阿南市地域共生推進課	兼任	恵理課長補佐
居宅介護支援事業所部会	山脇	敦子部会長
在宅医療・介護連携支援センター	湯浅	祐司センター長

(2) 研 修

《研修内容》

- ① 阿南市防災個別計画等について
- ② 個別計画（事例）紹介
- ③ 居宅介護支援事業所BCP・平時対応等について
- ④ 意見交換

《講 師》

阿南市生活支援コーディネーター 仁木 康統氏

まずは、上記の①～③について講師より説明があり、以下の項目についてグループワークで話し合いを行い出した意見は以下のとおりである。

○個別計画（事例）を通して、作成するにあたり難しいと感じた点について

- ・急に避難するようになり避難所行先や避難支援者を調整する時
- ・避難支援者の優先順位の付け方
- ・計画作成するまでの準備
- ・協力者の抽出・本人のADLが変更の度に作成するのは困難・状況が変わった時の見直しのタイミング
- ・避難所までの支援が出来るかどうか
- ・避難所まで行く方法
- ・避難経路の確認（状況に応じて違うので難しい）
- ・検討、アドバイスした事が本当に正しいのか不安がある

- ・要介護3~5以外の人でも作成が必要な人は対象にならないのか
- ・ケアマネジャーが必要と思う人を抜粋するのか、マップ等参考にして抜粋するのか分からない。
- ・民生委員の把握が難しい
- ・利用者が阿南市全域なので民生委員・防災士の方の連携が難しい
- ・歩行困難な人の移動方法がわからない
- ・避難する時間帯が夜間と日中で違ってくる
- ・利用者・家族に対する意識付けが難しい
- ・利用者が「かんまんここにおる」と言うと話が続かない
- ・台風は前もって対応できるが、意外と避難者は少ない
- ・「今までいけたけん」という気持ちが常にある。海の近くの方は東日本大震災の津波で逃げる意識は強い。
- ・避難支援者を選抜する時に、名前を計画書に書くとすれば受け入れてくれる人が少ないのではないのか。
- ・老々介護だと避難するのが難しい
- ・在宅酸素等医療が必要な方の避難はどうするのか
- ・地域防災会の方も高齢の人が多い
- ・地域によって災害が違う為対策を変えなければならない
- ・今までになかった災害が起こる可能性がある
- ・個別計画を作った事がなく、計画したとしても内容がうまく機能するか不安

#### ○平時の対応で取り組めることへの意見について

- ・本人や地域の人に防災時の聞き取りをしておく
- ・高齢世帯をどのように対応するか考える
- ・利用者の生活空間（環境）を再確認して危険の回避方法を検討
- ・避難所と避難経路を確認 可能であれば一緒に歩いてみる
- ・災害時何処に避難するか利用者と確認しておく
- ・家屋の確認 倒れてくるものはないか
- ・避難持ち出し袋の準備 持ち出し品チェックリストを渡し準備してもらう
- ・要援助者のリストを作成しておく
- ・同居者に高齢者がいないか確認
- ・アセスメント時に利用者に民生員の名前を確認、家族からの情報を確認
- ・マップにて利用者の住んでいる所に起こる災害を把握しておく
- ・食料や紙パンツ等の備蓄
- ・発電機、防災グッズ・薬品の準備
- ・緊急連絡先以外の地域の人で助けてくれる人がいるかどうか把握
- ・本人に自分の命は自分で守ると常に意識を持ってもらう
- ・自宅の防災の環境を整える（突っ張り棒・充電器）

○各事業所でのBCP取り組みの進捗状況について

- ・組織の大きいところは母体施設で出来ているが、居宅はまだというところが殆どである
- ・防災士の話を聞く機会に参加している

○進んでいない理由としては、どのような要因があるか

- ・ケアマネ業務が多忙な為、そこまで考えられない
- ・必要性は充分理解するが、何からという取り組みが難しい
- ・期限があるのでついつい後回しになり日々の業務におわれている
- ・作成の仕方が分からず、相談できる人がいない
- ・BCPが理解できていない
- ・個人情報の取り扱いが難しい
- ・事業所内で話合う時間がとれない。作成する時間がない。
- ・情報が少ない

【総評】

阿南市 26 事業所のうち 22 事業所が研修に参加して頂き、BCP作成・防災個別計画作成への皆さんの関心の深さを感じた。

最近は考えられない様な災害が頻回に発生しており、平常時から地域・医療・介護等連携を図りネットワーク体制づくりが重要である。

講師である仁木氏を中心に、今回の部会で出た意見を反映して、BCPの雛形作成を検討していく。また、定期的にBCPについての研修会を開催していく。

日々の業務の上にBCP作成・個別計画作りと大変だが、今後も研修の場を設け顔と顔の見える関係づくり、又意見交換を通じた資源の把握・課題の抽出を行い、資質向上を目指していきたいと思います。

【連絡会風景】



報告者：部会長 山脇 敦子